

建築家：Josep Maria Jujol y Gibert（1879-1949）に関する建築調査研究（13）

—“Iglesia de Montferri” 実測（1989-91）図面からの完成予想試案の考察：
スペイン・カタロニアの一建築潮流—

木 下 泰 男

星槎道都大学研究紀要

美術学部

第 3 号

2022 年

建築家：Josep Maria Jujol y Gibert (1879-1949) に関する建築調査研究 (13)

—“Iglesia de Montferri” 実測 (1989-91) 図面からの完成予想試案の考察：

スペイン・カタロニアの一建築潮流—

木下泰男

要約

完成予想図面案の所有とその整理及びその完成予想案表現に至る考察をする。ジュジョールの建築には、明解な複合化を用いた領域をはっきりさせるリアリティのあるその概念が見て取れる。その取り合い部分の攻めぎ合う緊張感の安易と思えるほどの試みには、対するジュジョールの尊敬の念が推し量られる。モンフェリーの完成予想案を通じて、ジュジョール後期・円熟期の総合性を感じると共にその建築表現の持つ異種との複合性の尊重を間違いない「手法」としてのその表現力は特筆すべく値する考えのもとに全体をまとめた。ジュジョールの「複合」について重要な試みと捉えることはカタルーニャでの生活で感じたグエル公園での破碎タイル表現であり、また都市における積層性に準えるその典型的な在り方を指し示す建築が Casa Planells (1923) と考えている。都市建築の概念は個性と地域性、歴史性の尊重などジュジョールらしい複合の組み合わせを以って潜ませる方法から新たなモダニズムに向かう建築創造する姿勢を試みたのではないだろうか。このモンフェリー自体にその概念が随所に盛り込まれ複合表現されたジュジョールの「夢」としての建築と捉えることがこの完成予想案の主題ともなった。

1. はじめに

1989年当時、私は、目に焼き付けようとバスを乗り継ぎ、葡萄畑の中の小さな丘陵に風化した遺構が1層部分の工事が中断したまま鎮座した未完の姿を後日、バルセロナから往復バスで通いながら実測調査が始まった。幸いしたのは、丁度、州政府が資金を用意し、故バセゴダ N. カテドラガウディ (レアル) 教授らによるこの遺構の再建が進められ始めた時期に重なった。1990年再建築がジュジョールのエスキス (1928年) からは程遠い様式化されたその姿形には自身納得と共感ができなかった。

ジュジョールの手による状態が隠れてしまうという私の懸念が実測調査行動を起こす空隙的な唯一のタイミングを得たといえる。

この教会堂の建設が始まる1926年は、偶然にも A. ガウディが市電の事故で亡くなる年と重なる。資金困窮事態から、3年間地域住民との協働で、手作り (オリジナル) の軽量コンクリート・ブロックの製作から建設が進められ1930年に建設中断してしまう。

さて、本論では、当初から思いを巡らせていたモンフェリーの完成予想試案について実測調査図面の整理を終えて、「初めに思った遺構を見て、理想の完成案を見てみたい思い」の考察を進めようと考えていた。

まず、モンフェリーのこの実測調査とジュジョールのエスキスを通して見えてきたのが、別称からもわかるようにこの未完の遺構は、カタルーニャの聖山信仰の「モンセラット (奇怪な岩山)」をモチーフとしたジュジョールの外観エスキス (1928年) には、幾重もの奇岩のクーポラを造形化が表現される。その造形に込められた意識はこうだ。

①聖山としての信仰を象徴するモンセラの造形の骨格を成しながら、聖書に登場する②「アララト」の丘の「方舟」を象徴するかのように古代船の形の教会堂平面は舳先を丘から突き出し、あたかも船出するかのような配置計画を呈している。これらの直喩表現に加え、③ジュジョールの構想した教会堂に聳えるクーポラに囲まれる三つの塔の表層を化粧バックのように剥がし裏返し反転させると母なる胎内造形を象徴する。この着眼は近接するバレンシアの「ファージャス (火祭り)」に製作される「型」と「版」の関係で型抜きされる地域生活に溶け込んだ人形の製作過程に類似していると私は考えている。④さらに、このモンフェリー (1926) の構想は、ジュジョールの既存建築の「トーレ・デ・ラ・クレウ (1908)」と「エスパーニャ万博広場のロータリ内噴水モニュメント (1928)」と〈生命の建築〉として3建築が連動していると考えられるのである。それは、「モンフェリー遺構」は

胎内細胞の「襞(ヒダ)」は突起としてのクーボラ群が胎内細胞と同化してくる。この教会堂全体は〈母なる女性の胎内を内包する〉メタファー(暗喩)として見えてきたことに着目すると、「トーレ・デラ・クレウ」は〈男性の象徴〉とするメタファーとして、「エスパーニャ万博広場のロータリ内噴水モニュメント」は、〈生命誕生の摂理〉としての細胞分裂のメタファーとして、既往論文で考察してきたところである。

2. 目的

当時作成した図面一式を整理考察した既往論文の次の段階として、ジュジョールの2枚のエスキスと彼の既往作品から完成予想図に向けた立面図4面基本図書(s=1/50;1m×1m)下書きの準備に取り掛かった。そして、そのうちの1枚を清書し、インキング仕上げ(S=1/50;1m×2m)を行った。前出の現状のミリタリー作図による立体のインキング(S=1/50;1m×2m)と共に、この作業は、帰国間際まで続いた。その製作過程と根拠を明らかにし、ジュジョールの未完の完成図面試案として考察提案することを目的とする。

また、帰国1991年当時からの実測図面の中に潜む概念とモダニズムへの意識を内包する建築の思考性は、図面の完成度をリアルな手掛かりとしてジュジョールの後期作品を代表するこのモンフェリーの遺構の一次資料としてジュジョール研究に寄与するための図面化をすること。そして、ジュジョールの精神と造形の後期総合を象徴すると考えられるモンフェリーの建築表現の概念についてジュジョール作品に於ける建築的な位置づけの根拠を明らかにすることも目的とする。



Fig.1)* Iglesia de Montferri / 未完遺構当時 1989.

3. 背景；

もう既に30年近くも前になってしまったが、1989年当時北海道の室蘭工大助教授で赴任されていた入江正之先生とバルセロナで待ち合わせし再会して以来、帰国した1991年夏にすぐ室蘭工業大学の先生の研究室をお訪ねし、丁寧に見て下さり、何かの形にまとめるように助

言戴いたのを今も忘れない。数年後、早稲田大学に戻られた入江正之教授の監修による日本で初めてA. ガウディを含む“ジュジョール”展が2002年12月~2003年1月まで横浜・赤レンガ倉庫を会場に『生命の建築ガウディとジュジョール展』が開催(参照:Fig.29)され、実測図面の招聘展示に今後の研究への確信を強く抱くと共に、今日に繋がっていることは間違いなかった。

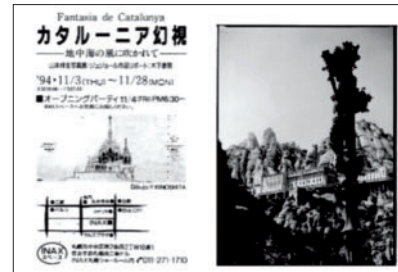


Fig.2)* カタルーニャ幻視展:山本・木下; INAX Space, 1994. (; 企画展覧会 DM)

バルセロナ市街、バルセロナ近郊、タラゴナ周辺の巡礼を経て、ジュジョール建築らしい「未完」という可能性を秘めた未完建築作品の風化した遺構の姿に私自身興味を抱き、実測の意思が芽生えた巡礼となった。

私のジュジョールの研究は、色々な点で偶然性な環境にあった。1) 丁度、バセゴダ教授チームの建設再建が開始される直前の幸運な空白のタイムラグのタイミングに恵まれ実測が可能となったこと。2) 実測調査で敷地に自由に立ち入れられ、遺構の規模が1階程度の一人で計測可能な実測ができたこと。3) ジュジョールの後期の作品であり、彼の既存の代表作品群を手掛かりとして考察できたこと。4) 当時まだ、モンフェリーは未完でもあって研究されていない狭間で研究の余地が残されていたと考えられたこと。5) この実測調査がカタルン以外の外国人の視点で実測調査し、自由なジュジョールの構想性が縛られなかった完成予想案を考察できた立場にあったこと。などが、渡西した時期に偶然重なったタイミングに恵まれたと考えている。

当時、モンフェリー教会堂(未完)の完成予想試案の構想をこう考えた。二つのモンフェリーのエスキスの断面と立面には、様式のスタイルが大きくゴシック調とモデルニスモ調とに異にしているという事が解る。試案の方向性を検討する必要があった。

そこで、私は基本的に「バセゴダ教授チーム」の建築造形が〈ゴシック調〉の断面エスキスを主眼と考えられる外観造形とは一線を画す点を背景とし、〈モデルニスモ調〉の立面エスキスの基本外観を目指した。私は、①遺構建築部(オリジナル遺構・実測図)+②断面エスキス(構想・平面規模)+③立面エスキス(外観踏襲)+④他作品既存部位要素引用し、立面エスキスを主眼とし→〈完

成予想試案)を意識した。

自身のジュジョールに対する思いは、断面エスキスの平面規模(1スパン大きさ)で立面エスキスの外観姿形を見たかった夢の実現が〈完成予想試案〉に他ならなかったのである。



Fig.3)* Montferri; イメージ・モデル (12群) 筆者, 札幌, 2012. (; 1m×1m, スチレンボードBOX+石膏模型)

4. 遺構実測図を経て完成予想試案の方針；

遺構の実測を野帳図面に落とし終え、滞りも終盤になると、ジュジョールの未完の完成の姿を見たくなり追求したくなった。

まず、私が試みようとする基本的な姿勢は、残されたジュジョールの立面エスキス(1928年)と断面エスキス(?年)の製作年の検討に着目した。というのも断面エスキスの作成年が明記されていなく明確ではないのである。

少なくとも立面より早い構想ではないかと考えられた。その理由に実は断面の方がエントランス部分のワンズパン立面より長いのである。つまり、アイランド型丘陵の敷地からはみ出す規模といえ、建設地の敷地を考えると立面エスキスの方が新しく実施に向けリアリティがあり、それゆえに、断面エスキスの方が立面エスキスより早い構想を示していると考えた。

そしてそれは、より構想性を読み解く検討が潜んでいるとも考えられるのである。

まずは、〈遺構の実測図〉をベースに未完部分の外観立面エスキスに従い、ジュジョールの構想の可能性を最大限に断面エスキスの要素を4面の立面試案に加え、更にジュジョールの既存の建築要素を不明部分を部位によっては、複合化させ完成試案に盛り込むことと方針を決め、1990年完成予想全体のエスキス化を少しづつ始めた。最終的には、東側立面のみのインキング・プレゼンテーションドロワーイング(linking, 1m×2m; W-Tracing paper)を帰国前に仕上げる事となった。

今後この作品についての研究が進める際の遺構のモンフェリー教会堂(未完)の建築が研究され尽くされていない一資料としての一助にジュジョールの未完に終わった集大成的意義を内包した大なる夢の教会堂建築構想

資料としての活用意義を持たせたかった。

このことを所蔵する実測図面を手掛かりに今後ジュジョール建築の構想する様々なジュジョール建築の変遷を探るうえでもこれら図面の活用は極めて重要な意義があると想像に難く自負している。そして、重要なジュジョール作品群の中の位置を示唆する建築であろうと考えられることを確信する。



Fig.4)* Montferri; Study Model (型/版); 筆者, 札幌, 2014. (; A1 パネル仕様)

5. モンフェリー野帳;1989-91年) + 完成予想(東西南北側4立面) 試案エスキス；

前述したとおり、現在の敷地に調整して描かれた1928年のエスキスがジュジョールの規模縮小の決断だったのではないかと考えられる。ただ私は、もし、丘陵の敷地にもっと余裕があれば断面エスキスの規模のワンズパン大きく、外観は1928年のモデルニスモ調に構想したのではないだろうかと考えに惹かれた。



Fig.5)* Jujol 研究『美術ペン』季刊1-8, 掲載; 筆者, 2016-18. (; A3 版見開き仕様)

5-1. 【参照資料図】

(1)立地参照図面：3地域地図(欧州・カタルーニャ・アルトカンプ)・空撮写真(モンフェリー集落)資料；

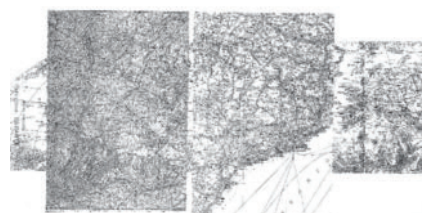


Fig.6) 地図; AltCamp-Cataluña-Spain (市販)

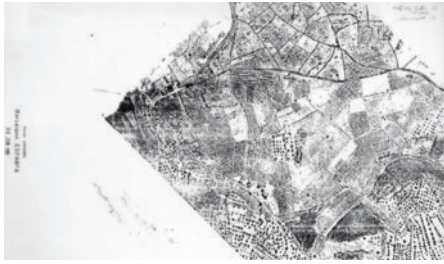


Fig.7) 空撮；Montferri 集落；役所所蔵

(2) Jujol によるエスキス図面 (Dibujo: J. Ma. Jujol) : 平面／柱割・断面・立面エスキス：1926-

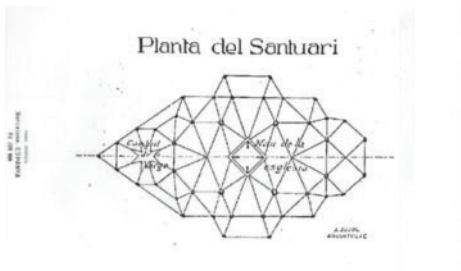


Fig.8) 柱割 (柱芯) 平面図；J.Ma.Jujol



Fig.9) Montferri 身廊断面エスキス；J.Ma.Jujol (?年)



Fig.10) Montferri 立面エスキス；J.Ma.Jujol, 1928.

5-2. 【実測参照図】

(3)遺構実測図面 1989年～ (Dibujo: Y. Kinoshita.) :

B-1) 実測 (遺構 1991) 現況建築 Oblique :

No 1/8p インキング, トレペ, (S=1/50) W930×L1,110mm, (縮小版) Barcelona, Spain. 1990.*

【図解】中央に1989年当時の立体図にピロティ+後陣・左右の袖廊外部に完成予想のアーケード・エントランス側に断面エスキスのワンスパン分増の前室+波型のGL. 階段+アーケードの基礎配置が描かれている。原

版は, 横長 W930×L2,080mm。

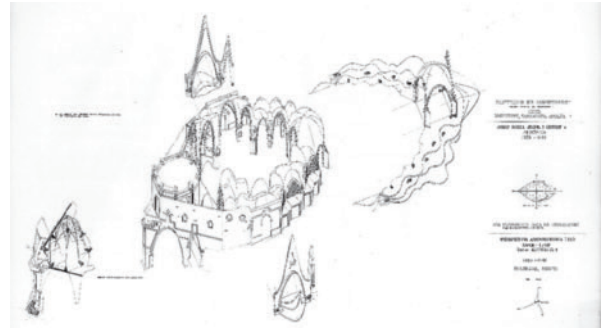


Fig.11)* 実測 (遺構 1991) 現況建築 Oblique pro.:Klinoshita

B-2) Master plan ; 集落広域配置 ;

No 2/8p ペンシル, トレペ, (S=1/1,000) W450×L850mm, Barcelona, Spain. 1990.*

【解説】右側にモンフェリーの200メートル程の線状集落の中心に位置する地域教会堂 (Paroquia) より果樹畑に伸びる畦道を斜め右に昇ると, 瓢箪型の丘陵の松林の敷地のくびれたゲートに辿り着くアプローチのシェル形うねった塀が迎えてくれる。一面果樹畑の畝に囲まれているのが解る。



Fig.12)* Master plan ; 集落広域配置 (S=1/1,000) 1989.

B-3) Site plan ; 遺構 (1989) 敷地配置 ;

No 3/8p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850mm, Barcelona, Spain. 1990.*

【解説】果樹畑の中に位置する東西に長く一段高い瓢箪型の松林に囲まれた丘陵敷地。西側に集落から望む礼拝堂が配置され, 振れた敷地中央にゲートが設けられ, 東側に祭事用広場が用意されている。礼拝堂のエントランス・アプローチ部分の引きの距離が立面エスキス (1928) 案の方が広く取られその端にパーゴラが設けられているが, 実測現況では, パーゴラを設置するほどのスペースが難しいことがわかる。そして, 断面エスキスには, ワンスパン広げられ敷地確保のため更に, 陸橋が設けられ広くとる必要があったと考えられる。

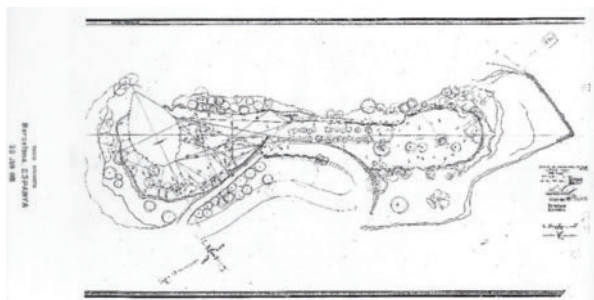


Fig. 13) * Site plan; 遺構 (1989) 敷地配置 (S=1/200)

B-5) 遺構 (1989) 1F 芯心基準寸法平面図；

No 4/8p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1990. *

【解説】現況の実測心芯平面図 (左右壁レベル違い表現)・後陣スキップフロアだが, 完成試案では, エントランス側をジュジョールの断面エスキスに従い同様のワンスパンが追加され, 左側のエントランス側に増殖され, 規模が立面エスキスの平面よりも大きくなる。

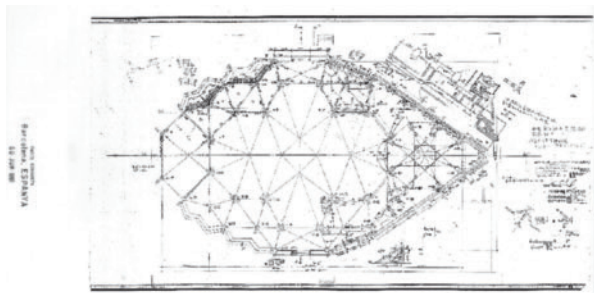


Fig. 14) * 遺構 (1989) 1F 芯心基準寸法平面図; (S=1/50)

B-14) 遺構 (1989) Y-Y'身廊中央断面図；

No 5/8p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1990. *

【解説】現況の中央縦断面図 Y-Y'だが, 右側エントランス部に完成試案では, ジュジョールの断面エスキスに従いワンスパン追加される規模になる。その上部には, 一番低い鐘塔が設置され, 屋上を渡廊で繋ぐと考えられる。

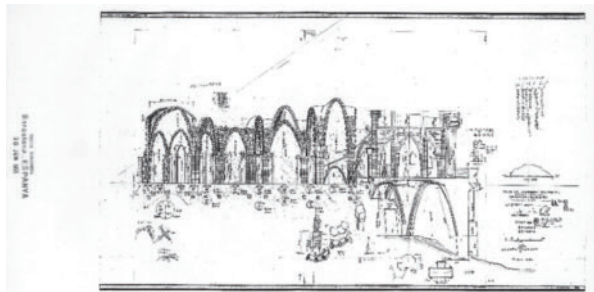


Fig. 15) * 遺構 (1989) Y-Y'身廊中央断面図 (S=1/50)

B-21) 実測 (遺構 1990)

コンクリート/ブロック Type-1 柱型図；

No 6/8p ペンシル, トレペ, (S=1/5) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1990. *

【解説】この柱型シリーズは, 内陣の柱型をまとめている。コンクリートブロック: 100×300×150 mm の組み合わせ 6 バリエーション構成。

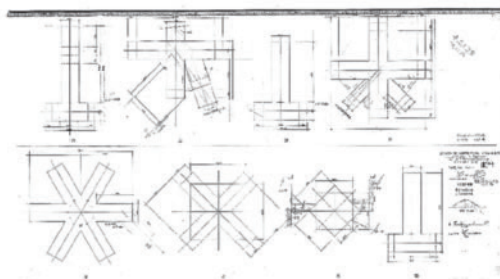


Fig. 16) * 実測 (遺構 1990) コンクリート・ブロック Type-1. 柱型 (S=1/5)

B-22) 実測 (遺構 1990)

コンクリートブロック Type-2 柱型図；

No 7/8p ペンシル, トレペ, (S=1/5) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1990. *

【解説】この柱型シリーズは, 後陣の柱型をまとめている。コンクリートブロック: 100×300×150 mm の組み合わせ 4 バリエーション構成。

3 ピースと半割の組み合わせで祭壇室柱型を生み出しているのがみとれる。

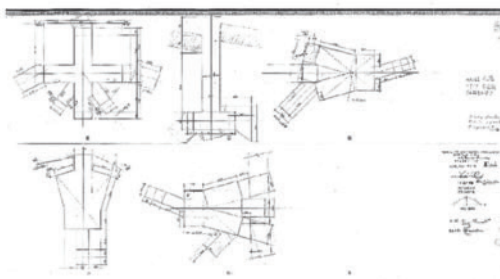


Fig. 17) * 実測 (遺構 1990) コンクリート・ブロック Type-2. 柱型 (S=1/5)

B-23) 実測 (1989) 丘陵外構・

ゲート, 塀, 洞穴“行者庵”, 陸橋；

No 8/8p ペンシル, トレペ, (S=1/50・30) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1990. *

【解説】丘陵敷地周辺に設けられている外構施設(ゲート, 塀, 陸橋, 洞穴,)を描き出している。

- ①ゲート: 大小の玉石積左右塔(表/裏)・側車輪止石積。
- ②柵塀: メッシュによるシェル構造柵造形。
- ③陸橋: コンクリートブロックによる 4 連続カタナリー曲線の敷地土壌補強。
- ④洞穴: 1989 年当時は, 未完成の洞窟。教会堂とは別に

精神修養の空間としての「行者の庵」が付属している。

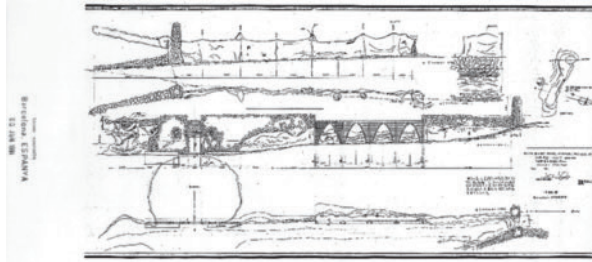


Fig.18)* 実測 (1989) 丘陵外構：ゲート，堀，洞穴“行者庵”，陸橋

5-3. 【完成予想の為の準備図面】

(4)完成予想試案の準備図面 (Dibujo ; Y. Kinoshita) ;

1) 完成予想試案後陣ピロティ脚柱平面 ;

No 1/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】丘陵敷地から飛び出す教会堂の後陣部ピロティ(高床部)脚柱と左右の連続放物線アーチが見られる。その後陣・祭壇室を見上げる天井には薄いコンクリート・レンガサイズ・ブロック(薄い1/3分割された)で素朴にラテン十字型に張られている。エントランス側の平面の輪郭を四角のワンスパン広げたものを増殖させている。その先には、立面エスキスのパーゴラを示している。因みに、断面エスキスでは、パーゴラの位置に陸橋が計画されている(*兼実測図)。

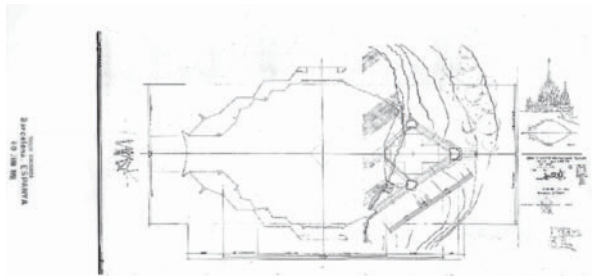


Fig.19)* 完成予想試案後陣ピロティ脚柱平面 (S=1/50)

2) 完成予想1F階段・側廊(化粧積湾曲)平面図 ;

No 2/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】完成予想試案内陣の柱配置とスキップ・フロアへの遺構として残されている階段と後陣の柱配置を示し、エントランス側の菱形の空間に接続する形で四角い空間を増殖させている。その先には、パーゴラを示している。ここでは、断面エスキスの陸橋は採用していない(兼実測図)。

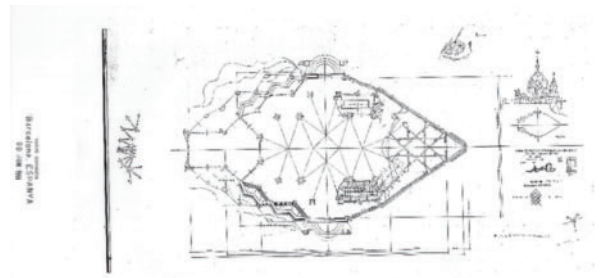


Fig.20)* 完成予想1F階段側廊(化粧積アーチ)平面図 (S=1/50)

3) 完成予想試案2F内陣クーポラ平面・

屋根伏と後陣祭壇天伏 ;

No 3/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】完成予想試案の2層目内陣：水平(メインクーポラアーチリブ立ち上がり)平面及び一階部屋根伏せと後陣：階段・天井伏を示している。エントランス側の平面の輪郭をワンスパン広げたものとし、エントラス側外周には立面エスキスにみられるアーケードが表現配置されているのがわかる。その先には、定点としてのパーゴラを表現し、陸橋は採用していない。

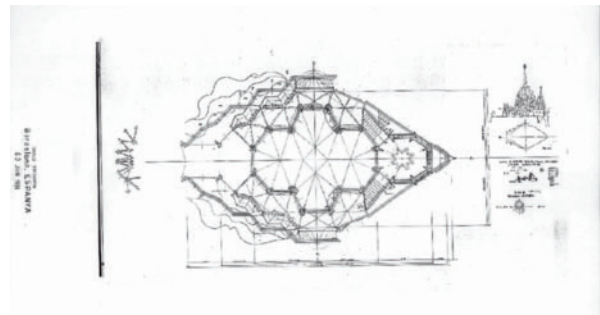


Fig.21)* 完成予想試案2階内陣クーポラ屋根伏後陣祭壇天伏

4) 完成予想試案屋上キャットウォーク伏図 ;

No 4/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】完成予想試案2階平面(アーチ/リヴ開始)・屋上キャットウォークと後陣2階天井伏(鐘塔星形トップライト),エントランス側のアーケード設置が解る。クーポラドーム曲面上の三角・四角水平版組み合わせによる有機的に繋がるキャットウォーク屋根伏。エントラス上の鐘塔の姿が表現され始めた。

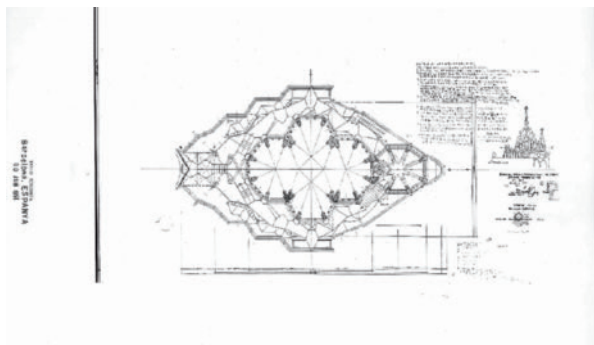


Fig.22) * 完成予想試案屋上キャトオーク伏図 (S=1/50)

5) 完成予想試案屋根・小クーポラ・鐘塔伏図；

No 5/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991. *

【解説】完成予想試案屋根伏せは、モンセラ奇岩小クーポラ群（及び冠する十字造形メタルワークエスキス）の配置に囲まれる中央の鐘塔（約 36m）及びアプローチ階段と後陣鐘塔（約 21 m）とエントランス上のドーム鐘塔（約 10m）に繋がるパーゴラの渡廊がわかる。

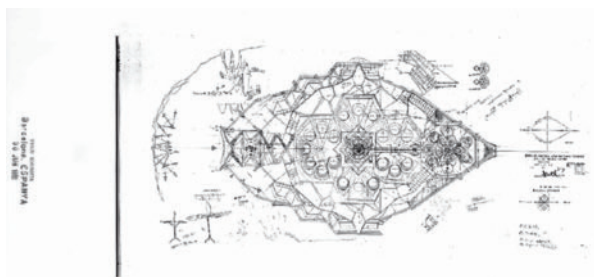


Fig.23) * 完成予想試案屋根・小クーポラ・鐘塔伏図 (S=1/50)

6) 完成予想試案鐘塔検討エスキス；

No 6/17p ペンシル, トレペ, (S=1/30) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991. *

【解説】完成予想試案のための内陣メイン鐘塔と後陣鐘塔デザイン（含む冠飾ワーク）エスキス及び階段検討詳細エスキス。小クーポラ群は内陣ドームリヴをかわして配置される。

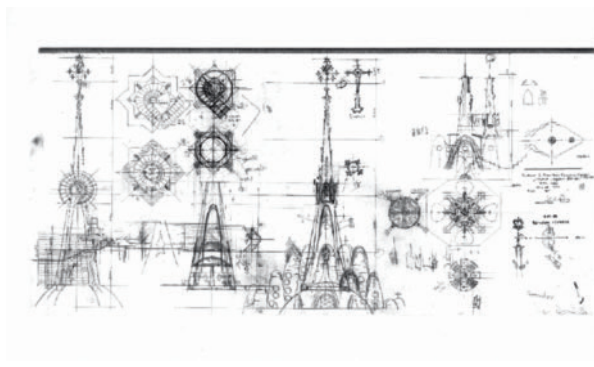


Fig.24) * 完成予想試案鐘塔検討エスキス (S=1/30)

7) 遺構（1990）後陣外壁／2F 再建アーチ外部展開；

No 7/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991. *

【解説】完成予想試案の後陣 2 階建築輪郭造形は、実測調査時点で再建チームのものを表現（1990）している。後陣（祭壇室）アーチ造形と外壁展開である（*兼実測図）。

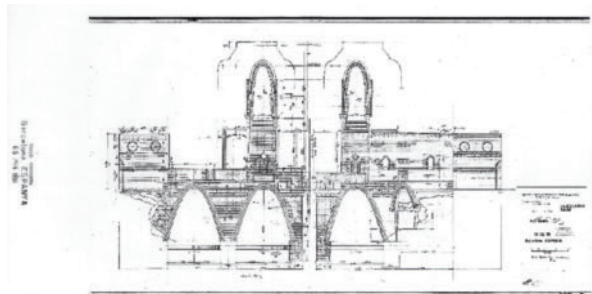


Fig.25) * 遺構（1990）後陣外壁+2F 再建アーチ外壁展開

8) 完成予想試案後陣 2F 再建部北側立面；

No 8/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991. *

【解説】完成予想試案は、実測時の再建時の後陣（祭壇室）建築造形を示している。尖頭のピロティ（高床）から後陣 1 階（既存）、2 階（再建）空間を注出した北側立面を表している。

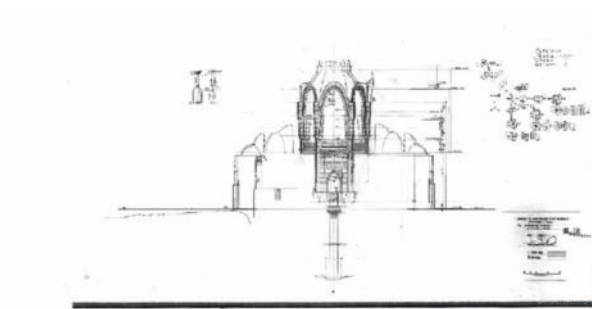


Fig.26) * 完成予想試案後陣 2F 再建部北側立面 (S=1/50)

9) 完成予想試案身廊再建部分 Y-Y'断面；

No 9/17p ペンシル, トレペ, (S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991. *

【解説】完成予想試案は、内陣と後陣との接続／階段部の再建アーチと後陣（祭壇室）を中央断面としてピロティ部分からエントランスの輪郭を示しながら表現している。

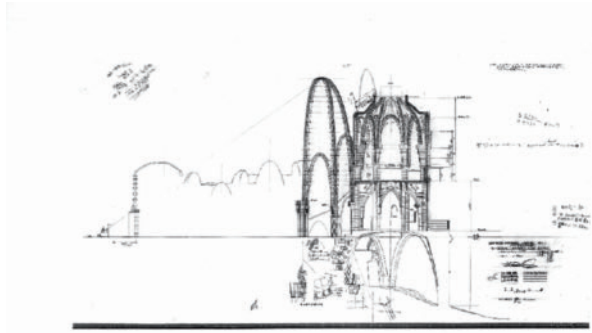


Fig.27)* 完成予想試案身廊 Y-Y'断面：再建中の後陣前アーチ (S=1/50)

10) 完成予想試案開口部分展開；キャトウオーク検討；
No 10/17p ペンシル，トレペ，(S=1/50) W450×L850 mm, Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】完成予想試案では，断面エスキスにみられるステンドグラス開口部のデザインを実測平面図と完成予想立面に設定した屋上のクーポラを躲して配置されたキャトウオークの外部基準位置から得られる内部展開(*断面エスキスではクラシカル／古典調表現に留まっている)の開口部ライン位置を準えると偶然にもほぼ一致したことに驚いている。ただ，内部展開の完成を進める場合外観のモデルニスモ調の検討が必要なのかもしれない。

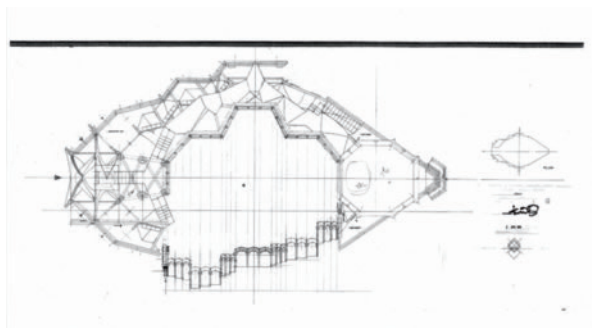


Fig.28)* 完成予想試案開口部分展開；屋上キャトウオーク・レベル作図／エスキスと合致 (S=1/50)

5-4. 【全体と鐘塔高さのプロポーシオン案】

(5)完成試案検討図面 (Dibujo：Y. Kinoshita)；

11) 完成予想試案 Jujol プロポーシオン検討(1)；

No 11/17p ペンシル，トレペ，(S=1/50) W297×L420 mm (A3版)，Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】立面では，後陣鐘塔のトップから断面より小さな平面でありながら分割ライン3倍強のメインの鐘塔高さである。その根拠は，おそらく60°の勾配出発は，エントラス前のパーゴラの位置に依っていると考えた。



Fig.29)* 生命の建築；ガウディ・ジュジョール展，出展横浜，2002。(；案内フライヤー)

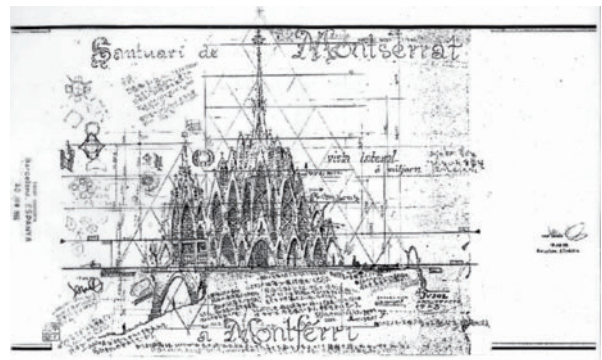


Fig.30)* 完成予想試案 Jujol プロポーシオン検討(1) 立面エスキスに作図：Dibujo；Y. Kinoshita. (1990.)



Fig.31)* Concept；石膏イメージと放物アーチ Model, 2009。(；A1パネル仕様)

12) 完成予想試案 Jujol プロポーシオン検討(2)；

No 12/17p ペンシル，トレペ，(S=1/50) W297×L420 mm (A3版)，Barcelona, Spain. 1991.*

【解説】断面では，後陣鐘塔のトップから FL. と GL がとズレを生じるが，大きい平面でありながら，分割ライン2倍でメインの鐘塔高さであることがわかる。断面でのその根拠は，ワンスパン大きいエントラスでは，敷地の丘陵の奥行きが実際よりも距離をとれず，陸橋で確保を考えたのかも知れないと推察できる。エントラスの構築部分より60°勾配が出発している点に依っているメイン鐘塔の高さであることがわかる。

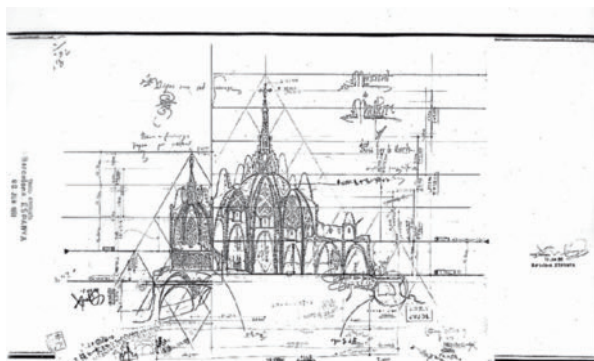


Fig.32)* 完成予想試案 Jujol プロポーシオン検討(2)
断面エスキスに作図：Dibujo；Y. Kinoshita.
(1990.)

5-5. 【実測図+完成予想試案検討図面】

(6)完成予想試案 4 立面 (Dibujo：Y. Kinoshita)；

13) 完成予想試案検討東側立面図；

No 13/17p ペンシル，トレベ，原版 (S=1/50) W930×L1,110 mm, Barcelona, Spain. 1991.* 【参照素材】
【解説】完成予想試案東側立面は，実測図面をベースに断面エスキスのエントランス側のワンスパン拡大とその上部の鐘塔デザインを検討し，ほぼ立面エスキスの外観を反映させている。メインの鐘塔の高さについての考え方は，ジュジョールのエスキス立面と同様にエントランス点前に設置されるパーゴラから 60° 勾配によって鐘塔飾り迄の交点を設定している。西側から屋上に渡されるキャットウォークは，東側の後陣と接続するところで屋上階段が直角に中央に向かい，中央に達した時点で内陣ドームの鐘塔にむかい尾根ずたいに鐘塔基部に辿り着き，鐘塔内螺旋階段で教会堂展望台に到達する。



<遺構実測図>+<断面エスキス>+<立面エスキス>

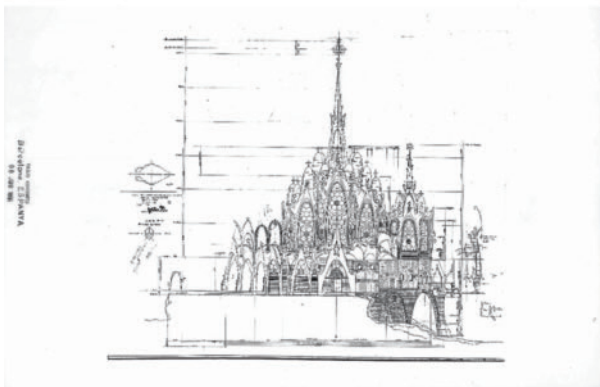


Fig.33)* 完成予想試案⑬検討東側立面図 (S=1/50) 1991.

14) 完成予想試案検討立北側立面図；

No 14/17p ペンシル，トレベ，原版 (S=1/50) W930×L1,110 mm, Barcelona, Spain. 1991.* 【参照素材】
【解説】生成予想試案北側立面は，遺構実測の北側図面をベースに断面エスキスの崖より突き出したピロティ後陣(祭壇室) 上部の鐘塔デザインをメイン鐘塔の基部の高さに設定し，検討している。メインの鐘塔と小クーポラ群の配置は，ほぼ立面エスキスの外観を反映させ，鐘塔の高さは，パーゴラからの勾配により決定している。



<遺構実測図>+<断面エスキス>+<立面エスキス>

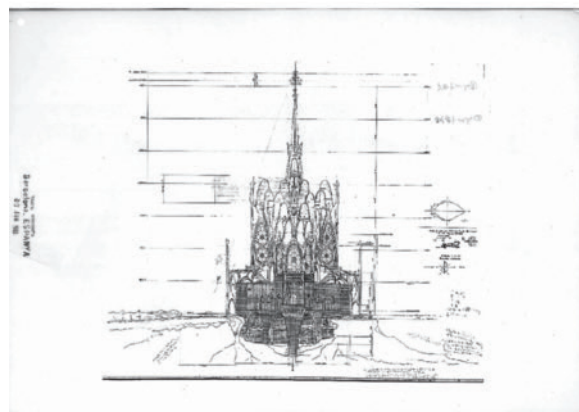


Fig.34)* 完成予想試案⑭検討立北側立面図 (S=1/50) 1991.

15) 完成予想試案検討西側立面；

No 15/17p ペンシリング，トレベ，原版 (S=1/50) W930×L1,120 mm, Barcelona, Spain. 1991.* 【参照素材】

【解説】完成予想試案西側立面は，実測図面をベースに断面エスキスのエントランス側のワンスパン拡大とその上部の鐘塔デザインを検討し，ほぼ立面エスキスの外観を反映させている。メインの鐘塔の高さは，パーゴラから約 60 度勾配と鐘塔飾りとの交点で決定している。スキップフロアーとなっているキャットウォークが，小クーポラ群を囲む形で屋上を有機的に配置されている。後陣のピロティ (高床) の 2 連アーチは，こちらの立面では敷地の崖部により後部のアーチは小さく立面表現となっている。袖廊からエントランスを過酷外周には，アーチ状のアーケードが配置されているのが解ります。有機的なキャットウォークへの導線は，後陣 2 階のアーチ開口部出入口となって屋上キャットウォークに出て，スキップフロアーになっているキャットウォークはエントランス正面側を通過して反対東側の内陣と後陣の 3 階外部接続部

に昇り詰めます。



<遺構実測図>+<断面エスキス>+<立面エスキス>

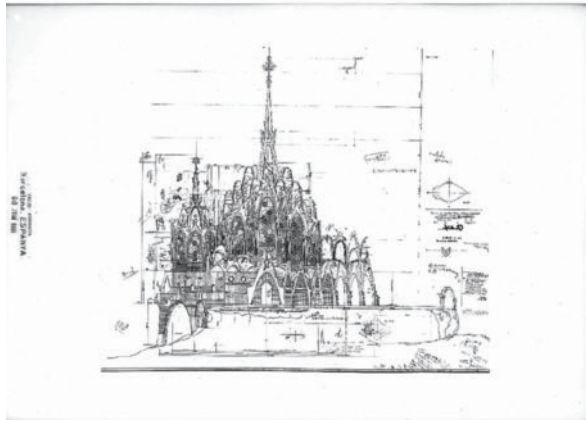


Fig. 35) * 完成予想試案⑮検討西側立面図 (S=1/50) 1991.



Fig. 36) * El panfleto; スペイン・JIA 展, 出展: Barcelona, 2010. (; A3 版冊誌)

16) 完成予想試案検討南側立面図 ;

No 16/17p ペンシリリング, トレペ, 原版 (S=1/50) W930×L1,120 mm, Barcelona, Spain. 1991. * 【参照素材】

【解説】完成予想試案南側立面のファサード(エントランス正面)は、実測図面をベースに断面エスキスのエントランス側のワンスパン拡大とその上部の鐘塔デザインと連絡通路を検討し(立面エスキスには連絡通路は見られない)、ほぼ立面エスキスの外観を反映させている。メインの鐘塔の高さは、パーゴラから約60度勾配と鐘塔飾との交点で決定している。ファサード外周には、アーケードが配置されているのが解ります。



<遺構実測図>+<断面エスキス>+<立面エスキス>

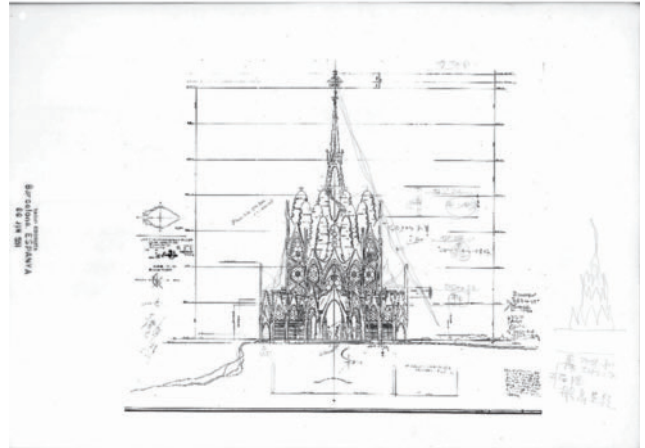


Fig. 37) * 完成予想試案⑯検討南側立面図 (S=1/50) 1991.

17) 完成予想試案東側立面図 ; プレゼン図面 ;

No 17/17p インキング, W トレペ, (S=1/50) W930×L1,110 mm (縮小版), Barcelona, Spain. 1991. *

【解説】完成予想試案東側立面図を清書・インキング仕上げとして描いている。この図面は、縮刷用にレイアウトしなおしたものになるが原版は横長 W930×L2,080 mm になる。

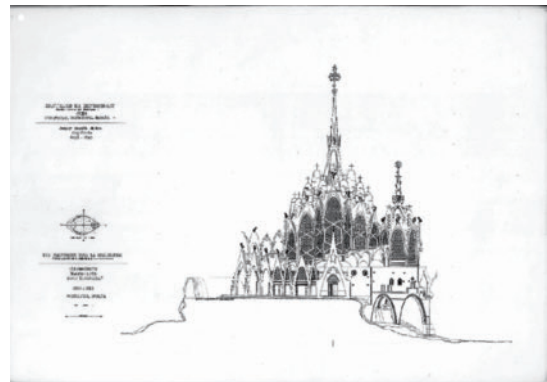


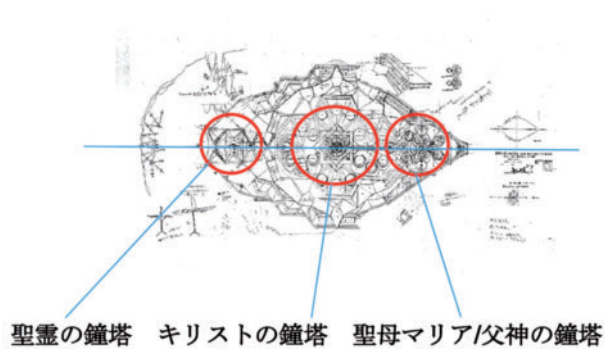
Fig. 38) * 完成予想試案⑰東側立面図 ; Inking (S=1/50) 1991.

<*以上, /17page>

6. 【完成予想試案図面ための考察検討】

そこで、実測図面とジュジョールのエスキスを融合することから何が見て取れるかのより、リアリティをもった考察を検討し、その糸口からジュジョールの思考を探ってみる。

6-1.) 【考察】 クーポラ配置と鐘塔；



聖霊の鐘塔 キリストの鐘塔 聖母マリア/父神の鐘塔

Fig.39) * 完成予想試案屋根・小クーポラ・鐘塔伏図 (S=1/50)

エントランス側上部の低い聖霊の鐘塔(約10m)1つに対し、聖堂の中央に聳えるキリストの鐘塔(約36m)とそれをとり巻くモンセラの奇岩群をモチーフとした小クーポラ群の内陣ドームは4つのカタルーニャ・ヴォールトによる構成の上部への19個に想定できる配置は、内陣のリヴァーチを交わして設置することで合理性が取れる。因みに、エントラス側に7つ、左右の袖廊側に3つずつ、後陣側に6つを検討した。そして、後陣(祭壇室)上部の聖母マリアの鐘塔(約21m)の周りに7つの配置を想定している。屋上のキャットウォークは、Fig.39)で分かるように亀甲柄のように有機的な平面で組み合わせられ「母なる女性」を象徴する陰部造形配置と3つの鐘塔はその生殖機能の象徴であり、小クーポラ群は体内表皮の鬚突起をも象徴していると解釈する。

6-2.) 【考察】 既存作品の反映/渡廊；

参照:渡廊=洗濯場(Casa Bofarull):低鐘塔⇔キャットウォーク

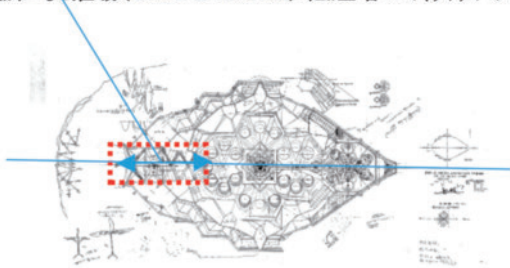


Fig.40) * 完成予想試案屋根・小クーポラ鐘塔伏図 (S=1/50)

ここでの考察は、断面エスキスにみられるをエントランス上部の鐘塔とその通路デザインの検討には、「Casa Bofarull (1914)」(Fig.41) 別棟の洗濯場に交叉アーチ・リヴ(パーゴラ)と塀造形の検討と「Talleres Manach (1916)」工場の連続な屋根造形の波形を組み合わせる検討の材料とした。



Fig.41) * Casa Bofarull (1914) の屋外洗濯場, 1989.

6-3.) 【考察】 アーチ構造パーゴラの玄関前配置；

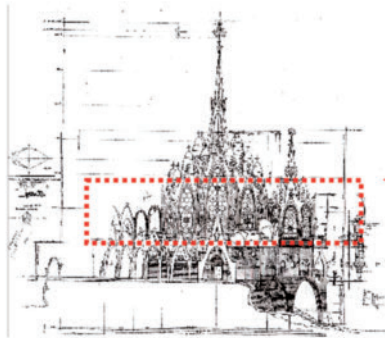
ファサードの前方外構デザインとして設置される断面エスキスにみる「陸橋」か立面エスキスにみる「パーゴラ」の採用の検討には、「Casa Negra (1915)」(Fig.42) 前庭の骨(組合せ要素)アーチ造形構造のパーゴラ・デザインを検討の材料とした。



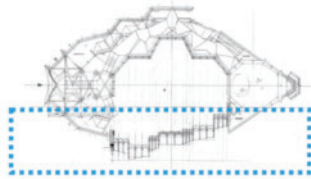
Fig.42) * Casa Negra (1915) 前庭広場横駐輪場(?), 2000.

6-4.) 【考察】 身廊開口キャットウォークレベル；

ジュジョールの断面エスキスにみる内部開口窓(ステンドグラス)基部基準レベルが完成予想試案の東側立面キャット・ウォークでのレベルとの偶然の合致していることに驚嘆する。身廊内部の採光開口部のデザインについて、ジュジョールは断面エスキスによるイメージしか残しておらず、完成予想試案立面での内部デザインに影響する外観開口部(ステンドグラス)トレサリーアーチに関わるデザインは、断面エスキスを参考として導き出すしかないと考えた。また、開口部の内部展開は自由に段差を自由に計画すればよいのだが、屋根部とその屋上キャットウォーク(回廊)の関係から開口部の始まり(下端)を合致させる必要があると考えていた。屋上キャットウォーク(回廊)は、緩やかな傾斜の段差を擁する必要があり、後陣屋上に出入口があり、そこから身廊屋上に展開するキャットウォークがスキップフロアとして一段ずつ(台形のステップ版)が屋上を回周していく。そのステップ版がトレサリーアーチ開口部の下端の位置を決定するのである。その決定こそがトレサリーアーチ開口部に正三角形のステンドグラスが嵌められ長く伸びたアーチから天井のドーム内側へとデザインが移行していくと考えられる。

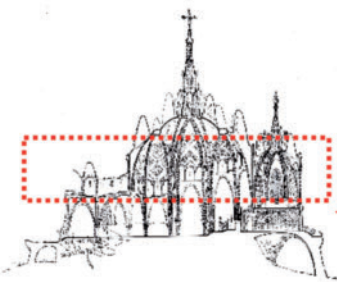


★完成予想試案検討東側立面屋上キャットウォーク(S=1/50)



*<トラス-開口部位置立面と合致！>

★試案内展開;屋上キャットウォーク・開口部ハルがエスキスに合致



★Montferri 反轉身廊断面エスキス開口位置:J.Ma.Jujol

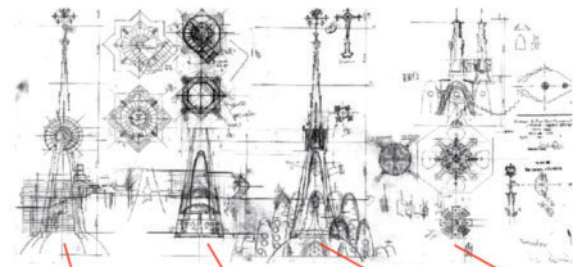
Fig.43)* Montferri 東立面/身廊開口展開/断面エスキス



Fig.44)* DM; 実測図面/木下泰男展, Gallery 創 (札幌) 2012. (; 個展案内ハガキ版)

6-5.) 【考察】メイン鐘塔の専用階段造形検討;

完成予想試案検討にあたり、内陣上部のメイン鐘塔部の詳細検討エスキスで、専用階段と塔飾り及び後陣上部における鐘塔のデザイン検討エスキス。



A:内陣鐘塔 B:内陣鐘塔 C:内陣鐘塔 D:後陣鐘塔

Fig.45)* 完成予想試案鐘塔検討エスキス (S=1/30)

6-6.) 【考察】 エントランス周リアーケードとプラットフォーム造形配置;

完成予想試案では、エントランス側にアーケードと共に数段のプラットフォームを立面エスキスから読み込んで、ウエーブ(波/波紋)をイメージし、階段を想定した。そこに設置されるアーケードは、エスキスから忠実に外壁の雁行する形に平行配置させている。

【参照】 S. Juan de Duero,Soria(12~13C.)



<エントランス区画アーケード>;設置位置(プラットフォーム)

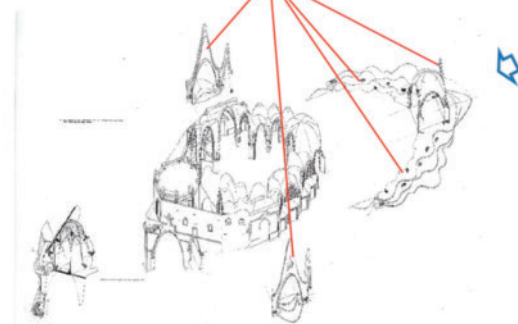
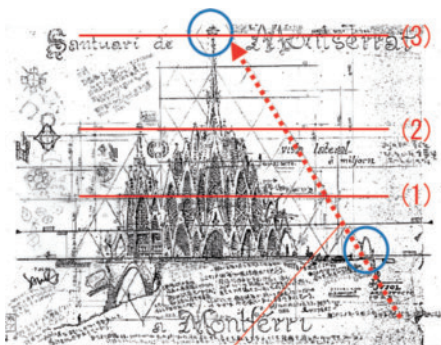


Fig.46) 区画連続アーケード; S. J. Duero+実測 (遺構 1991) 現況

ジュジョールは、おそらく、ムデハール様式(12~13世紀のキリスト教社会下のイスラム教徒美術)のサン・ファン・ドゥエロ(Soria)のようなアーケードによって区画された外構の歴史的な建築要素空間を原緒とするかのような思考を形に表現したのではないだろうか。

6-7.) 【考察】 規模と3鐘塔のプロポーション；

完成予想試案では、断面/立面エスキスにみられる3つの鐘塔(計画上の高さ)；エントランス上部のクーポラの鐘塔「聖霊の鐘塔」(≒ 10m)、内陣上部のメイン鐘塔「子=キリストの鐘塔」(≒ 36m)、後陣上部の鐘塔「聖母マリア(父なる神)の鐘塔」(≒ 21m)の高低についての検討には、60度勾配比率構成による高度決定と考えている。意味性の考察検討には、カトリックの三位一体とする父なる神/聖母マリア・子としてのキリスト・聖霊の教理を鐘塔に象徴とし、完成予想試案での鐘塔のプロポーション(高さ)を想定検討している。



<クーポラより勾配60度>

Fig.47)* 完成予想試案 Jujol プロポーション検討：60度

6-8.) 【考察】 内陣開口部のプレハブ(花卉) 部品；

完成予想試案では、内陣と後陣のアーチ開口部を埋めて構成するプレファブリケーション・パーツとしての正三角形のプロトタイプ成形コンクリートブロック(一辺：400×400×400×D210+70mm) 組み合わせ開口部枠。中央にハート型(花卉形)の空洞部とし、部分奥行きとして70mm 突起している。八角形を組み合わせ構成すると突起部分が八角形の中央部分を生み出してくる。スタンドグラス(色ガラス/透明ガラス)がそこに埋め込まれると考えられる。



Fig.48)* 正三角形のプレキャストコンクリート型枠(スチール) 2010.

6-9.) 【考察】 柱型の組み合わせブロック；

完成予想試案ではほとんど手を加えることのない柱型 Type-1.) といえ、内陣身廊の既存遺構部としてジュ

ジョールが建設を完成させている(8タイプ)である。アーチや壁面に用いられるコンクリート・ブロック；100×300×150mm を組み合わせて6つのバリエーションを生み出している。



Fig.49)* コンクリート・ブロック型枠(木製), 2010.

また、ほとんど手を加えることのない柱型 Type-2.) は、プレ・ロマネスクの“サン・ミゲル・デ・エスカラダ(León, 913)”のモザラベに敬意を指し示すかのように、後陣祭壇室の天井の「オージヴ」から繋がるリヴが壁面での壁柱として基本仕様のコンクリートブロック(100×300×150mm) を用いてデザインされている。

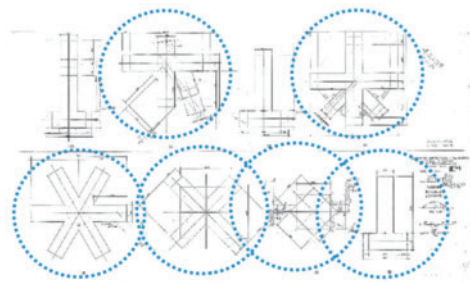


Fig.50)* Montferri 遺構後陣 1F 天井“オージヴ”, 2010.

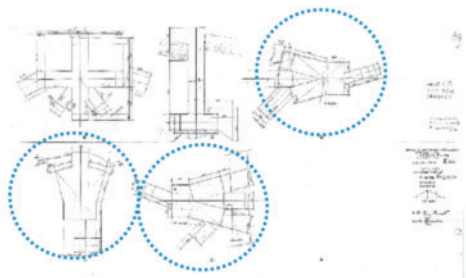
一段目を横使いに八の字に開いたブロックを組み合わせ、ブロックの3割りを開口側に間に挟み3ブロックを基本3タイプの祭壇用に柱型を作り上げているのが解る。

身廊部での柱型は、おそらくブロックで生まれる柱型に変化と多様性をバリエーション化させることで、古典オーダーに対する細やかなる挑戦が経済性に迫られながら導かれた判断だったのではないだろうか。型式のタイプとしては大きく幾つかの組み合わせに集約されている。T字型、放射型、マッス(角体)型、十字+角体組合せ型、十字+斜方向型、等である(Type-1)。

先に述べた後陣部の柱型では、3つのブロックに3分割をパーツとし挟んだ基本の柱型(Type-2)に中心方向を向かせながら先端から延びるリヴに角度を与えて天井のイスラム期モザラベの“オージヴ”模様に繋がるリヴとの一体化の工夫を生み出しているのが解る。



★実測(遺構内陣)コンクリート/ブロック Type-1 柱型図(S=1/5)



★実測(遺構後陣)コンクリート/ブロック Type-2 柱型図(S=1/5)

Fig.51)* 実測 (遺構 1990) コンクリートブロック Type-1 .+Type-2 .柱型

6-10.) 【考察】敷地下に対なる洞窟“行者の庵”；

完成予想試案でも外構施設については、ジュジョールが手の手がけた現況実測時そのままの未完成を基本と考えている。が、2010年に訪ねた際に洞穴については手が加えられ整備されていた。その直上の祭事広場には放送鐘塔が新たに建設されていた。



Fig.52) 聖山モンセラ洞窟；“キリストの復活”：ガウディより引き継ぐJ. ルビオー，1916.

建築本体と洞穴の関係は、モンセラの第一の秘跡洞窟（ガウディから助手ルビオーに引き継ぐ）や、エル・カブリチョの洞穴などA. ガウディ建築にもよく見られる。建築用途の性格にもよると思うが、ここでジュジョールはより精神性修養のための機能を持たせ、教会堂の機能を充実させたかったに違いない洞窟“行者の庵”なのではないだろうか。

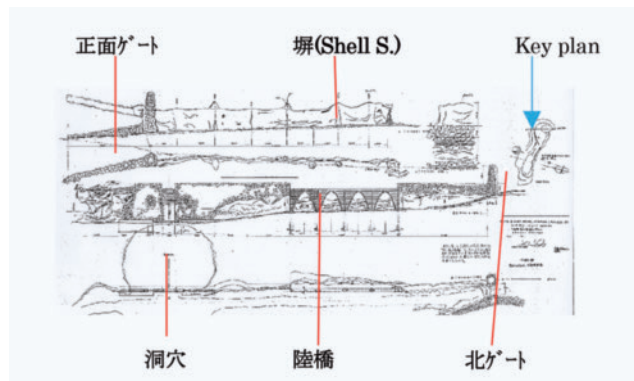


Fig.53)* 実測 (1989) 丘陵外構；ゲート，塀，洞穴：“行者の庵”，陸橋

6-11) 【考察】独自性を模索した平面にみる概念性；

既往論文でも述べたように、ジュジョールは、平面を検討する上でA. ガウディのコロニア・グエル地下聖堂の平面を意識しながら松（裸子植物）の「松毬」をモチーフとして自然主義のA. ガウディとは異なる導き方として「松毬」を分解し、その構造の概念を雁行壁と尖頭ピロティ繋ぐ内包するものとしてモンフェリー教会堂平面に見出したと考えた。

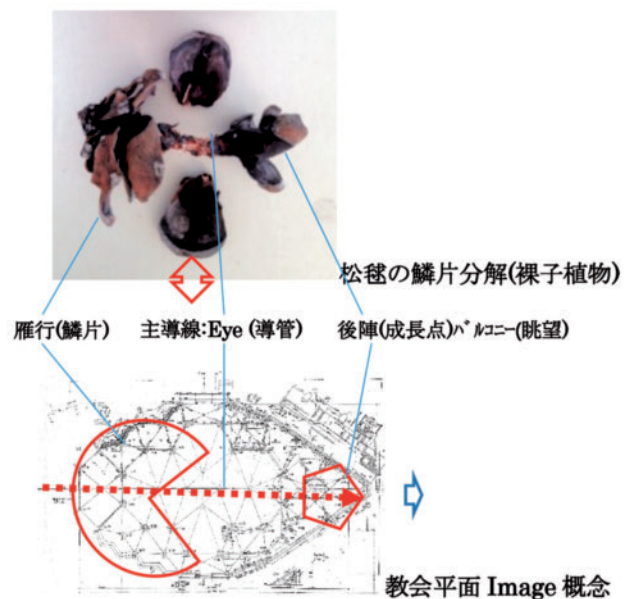


Fig.54)* 平面の着想を松毬鱗片分解に求めた教会堂概念

6-12) 【考察】コラージュとしての建築要素の複合化構成；

ジュジョールは、この教会堂の計画に第1層部分に歴史的複合化と2層以上にモデルニズモ様式の試み、全体としての更なるモダニズムへの挑戦を試みたのではないだろうかと考えている（Fig.55 参照）。この根拠となるのが、〈Parque Güell〉での破碎タイル表現から導き出されるプリコラージュの概念に他ならないのではないだろ

うか。

ジュジョールは A. ガウディの他の師弟 F. ベレンゲールや J. ルビオーのように A. ガウディに傾倒するのではなく、現代巨匠の P. ピカソ (1881~1973) と同時代に生き、バルセロナの経済が下降する中でカタルーニャの他の芸術家たちの J. ミロ、S. ダリらに先んじるかのようにシュールレアリズム運動 (1924) より、いち早く一線を画しながら模索し、建築の可能性を創作しているように思えてならないのである。

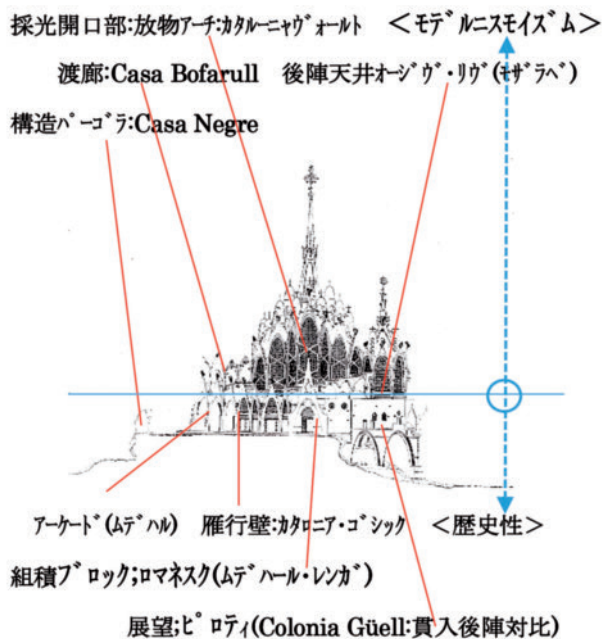


Fig. 55) * 建築要素にみる複合化の概念模式

7. まとめ；

ジュジョールのエスキス立面 (1928) よりワン・スパン大きな断面エスキス (?) の構想から立面エスキス段階を踏んで、遺構と組み合わせ実現に向けての完成予想試案の検討をした。

完成予想図面案の所有に伴うその整理及びその完成予想案表現に至る考察で、ジュジョールには年代不詳の断面エスキスと 1928 年の立面エスキスの存在が明らかになっている。私は、この断面エスキスを 1928 年よりも早く、いよいよ実施に臨む「スタディ」なのではないかと考え、描かれた立面エスキス (1928) がジュジョールの目指す「夢」の構想だったのではないだろうかと考えている。その根拠は、完成案を考察する中で断面エスキス (?) が全体像をゴシック的に整理し、まとめられ「モダニズム」に向かう新たな試みが希薄としか感じられず、ジュジョールの「複合性」を重要なキーワードと考えると全体としてゴシック調である必要性がなく、部分でよいのである。つまり地域としてのゴシック的要素

が新たな建築造形に潜ませることでジュジョールの試みの姿勢と歴史性と新たな建築を生み出そうとする意識が立面エスキスにより強い可能性が潜んでいるのではないかと考えるに至ったり、立面エスキスをベースに完成案への取り組みを判断した。

このモンフェリー教会堂のファサード第 1 層部分に複合化され雁行する「カタルーニャ・ゴシック」の手法と考える伏線に、大きくマンサーナ街区に建つ Casa Planells (1923) に起因する歴史への尊重より導き出されているのではないかと考えている。

と共に、ジュジョールの決断のもうひとつは、平面形をバシリカ形式からの自由な開放をガウディの「コロニア・グエル地下聖堂」(1908-14) に尊敬と敬意を持ちつつ、その概念を対比させながら新たなモダニズムへの境地を試みたと考えている。但し、その規模について完成予想案では、ワンスパン分のエントランス屋上の渡り空間のようにディテール要素の多い断面エスキスの方を採用し、盛り込み、立面図に加えて構想を提案する。

完成予想試案にみるジュジョールの構想意識の一つにコロニアグエル地下聖堂との平面構成意識にみる思考性がみられるのではないだろうか。ジュジョールは、構想にあたり、後陣の対比的なまでに異なるその状況は丘陵に貫入するコロニアルグエルに対し、丘陵から突き出すピロティと対極的なだけにそこに思いを寄せて生まれた概念の平面形の決定に同じ松林立地環境にあってコロニア・グエル地下聖堂と同じ松の種子としての「松毬」のモチーフを用い異なる平面概念に対する意識を見出したと考えられる。A. ガウディに尊敬の念を抱きながらも対比させ、作品を想定し苦闘した上、生み出されたのかもしれない。

その平面から立ち上がる建築を総合的な要素をカオス (混沌) としてのコラージュ構成したのではないかと仮説を立てている (Fig.55)。

そのジュジョール (1979 誕生) 思考のカタルーニャの芸術環境は同時代を偶然に生きる〈キュビズム〉ピカソ (1881 誕生) や続く〈シュールレアリズム〉ミロ、ダリらに先んじるかのように建築を通して独自に自身の新たなモダニズムの方向性をモデルニスモの次代の建築家としての思考ではなかったのではないだろうかと考える。

ジュジョールの建築には、明解な複合化を用いた領域をはっきりさせるリアリティのあるその概念が見て取れる。その取り合い部分の攻めぎ合う緊張感は安易と思えるほど引用する試みにはジュジョールの敬意が推し量られる。モンフェリーの完成予想案を通じて、ジュジョール後期・円熟期の総合性を感じると共にその建築表現の持つ異種との融合性でなく、複合性の尊重を間違いなくジュジョールの「手法」としてその表現力は特筆すべく

昇華させた考えのもとに全体をまとめた。ジュジョールの「複合」について重要な試みと捉える。そのことはカタルーニャでの生活で感じたグエル公園での破碎タイル表現であり、都市においてのカタルーニャ民族舞踊の手をつなぐ様を「サルダーナ Sardana」に街区を象徴させ、構成するビルの垂直性は「人間の塔 Castells」の積層性に準えることができはしないだろうかと考えている。

その典型的に指し示す建築が Casa Planells と考えていて、都市建築の概念は個性と地域性、歴史性の尊重などジュジョールらしい複合の組み合わせを以って既存の技術を潜ませる方法で自身の新たなモダニズムに向かう共通の姿勢を試みたと考えられる。

このモンフェリー自体にその概念が随所に盛り込まれ複合表現されたジュジョールの「夢」としての建築であることと捉え、この完成予想案に盛り込んでいる。

振り返るとジュジョールは、若い時代にガウディから薫陶を受け、Parque Güell (1900-14) で任された〈破碎タイルの本質〉を建築における概念の中でプリ・コラージュを体現したのではないだろうか…。

謝辞；

2021年7月、日本で2020/TOKIOオリンピックが開催されようとしていた特に暑かった7月13日にカタルーニャ工科大学のファン・メルカーデ・ブルージェス教授（ドクター・アーキテクト）から1通のメールが届いた。私の学問的功績を認めて、U.P.C.（カタロニア工科大学・バルセロナ）ジュジョール・チェア科学委員会メンバーへの参加を受けてほしいとの推薦の提案の内容が届いた。

突然の内容に非常に驚きと共に、思いもよらない出来事でした。考えてみれば32年前に「未完の遺構を見て素直に完成の姿を見てみたいという思い」から始まったジュジョールの研究がここに来て国外の公立の現地大学からの研究者として認められるに至って大変光栄で名誉なことであると喜び、報われた気がしたと共にごうごうこともあるのかと青天の霹靂でした。9人の著名な研究者の中の唯一の日本人として北海道から無名の研究者でありながら私も選ばれたことは光栄なことである。改めてファン・メルカーデ・ブルージェス：U.P.C. 教授には感謝申し上げたい。益々、研究に邁進できる環境が私の遠い外国周辺から整い始めている気がしてならない。精一杯の努力と研鑽を重ねて委員会に貢献できるように精進して行く所存だ。



Fig.56)* “バルセロナ展”；札幌芸術の森・美術館 北海道建設新聞 9/13/2019（掲載）.



Fig.57)* カタロニア工科大学 “Cátedra Jujol” 委員就任, 2021.



Fig.58)* Nota Historica/hijo; Montferri, Tarragona, 2007. (；A3版リーフレット・モンフェリー教会堂の経緯・歴史)

この研究に関わり御指導頂いた多くの関係各位に感謝申し上げます。

そして、いつもこの研究の整理に協力をいただいている高島のり女史と末岡紀子女史にも感謝申し上げます。

注釈；

註1.) 「*」印は執筆者所蔵図面を示す。

出典 (図・版)；

- Fig.2)* DM；「カタルーニャ幻視」展：山本／木下 (INAX) 札幌, INAX SPACE・於, 1994.
 Fig.3)* Image Model / 12p 木下泰男実測図展；筆者蔵, 2012. *(及び：1994/1開催のR-BOX 展出展)
 Fig.4)* Stude Model Panel “型・版”：HAD 展；筆者蔵, 札幌地下歩行空間・於, 2014.
 Fig.5)* 『美術ペン』季刊 1-8 論文掲載, 筆者執筆, 2016~18. 北海道美術ペンクラブ編集
 Fig.6)* 市販地図：Spain, Catalunya. 公的頒布：AltCamp.
 Fig.7) 空撮；Montferri 集落；Montferri 役場所蔵, 1990.
 Fig.8) 9) 10) 『Josep Maria Jujol, arquitecto, 1879-1949』QUADERNS/179-180, Coilegio de A.C., 1989.
 Fig.29)* P：生命の建築：G.+Jujol 展, 入江監修, 横浜, 赤レンガ倉庫・於, 2002.
 Fig.31)* コンセプトボード；Model+Arch.：「デザインフェスタ」HAD 展；筆者蔵, マリアギャラリー・於, 2009.
 Fig.36)* P；北海道建築展／Barcelona, 出展, JIA. スペイン, カタルーニャ・バレアス諸島建築会館・於, 2010.
 Fig.44)* DM；実測図面・木下泰男展, Gallery 創, 札幌, 2012.
 Fig.56)* バルセロナ展；Jujol 噴水 (芸森)；北海道建設新聞, 札幌, 2019.
 Fig.57)* Cátedra Jujol (UPC カタロニア工科大) 委員就任, Barcelona, 2021.
 Fig.58)* Nota Historica; Ajuntament de Montferri, パンフレット A3 版 (表裏), 2007.

参考文献；

- 1) 『J.Ma. ジュジョール G. (Architect ; Spain/1879-1949) に関する建築調査研究 (Ⅷ)』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.94, 092/2021.
- 2) 『J.Ma. ジュジョール G. (Architect ; Spain/1879-1949) に関する建築調査研究 (Ⅶ)』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.93, 111/2020.
- 3) 『J.Ma. ジュジョール G. (Architect ; Spain/1879-1949) に関する建築調査研究 (Ⅵ)』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.91, 111/2018.
- 4) 『J.Ma. ジュジョール G. (Architect ; Spain/1879-1949) に関する建築調査研究 (Ⅴ)』木下泰男：日本

建築学会北海道支部研究報告集 No.89, 085/2016.

- 5) 『J.Ma. ジュジョール G. (Architect ; Spain/1879-1949) に関する建築調査研究 (Ⅳ)』木下泰男：日本建築学会北海道支部研究報告集 No.88, 096/2015.

- 6) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究(12)木下泰男：星槎道都大学研究紀要・第2号, p125-142/2021.
- 7) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究(11)木下泰男：星槎道都大学研究紀要・創刊号, p235-248/2020.
- 8) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究(10)木下泰男：星槎道都大学紀要・美術学部第45号, p95-106/2019.
- 9) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究(9)木下泰男：星槎道都大学紀要・美術学部第44号, p117-126/2018.
- 10) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究(8)木下泰男：道都大学紀要・美術学部第43号, p71-79/2017.
- 11)~17) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究(7)~(1)木下泰男：道都大学紀要・美術学部第42~36号, 各掲載ページ/2016~2010 迄の7巻をまとめています。

添付：

【参照】 Fig.59) 33・34・35・37) 完成予想 (試案 1991) 東西南北立面, No. : 13-16/17p (原版) ペンシリング・トレペ (S=1/50) W : 930×L : 1,120 mm) Barcelona, Spain. 1991.* <オリジナル下書き野幌図面>

【参照】 Fig.60) 拡大完成予想試案 (遺構 1991) 東側立面図；No 17/17p インキング・, ダブルトレーシング, (S=1/50) W : 950×L : 2,080 mm (縮小版), Barcelona, Spain. 1991.* <オリジナル再構成縮小コピー>

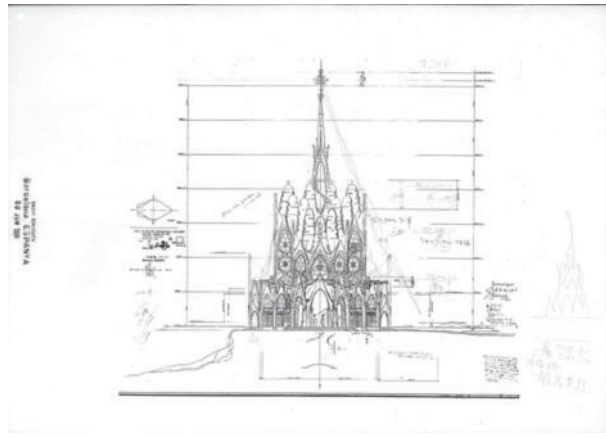
【参照】 Fig.61) 拡大完成予想試案 (遺構 1991) 東側立面図；No 17/17p インキング・, ダブルトレーシング, (S=1/50) W : 950×L : 2,080 mm (原版・横長版), Barcelona, Spain. 1991.* <オリジナル・ポジフィルム>

【参照】 別表-1. 『Montferri (未完) 教会堂完成予想試案所蔵図面 (1989-91) 整理一覧(13)』/2022.

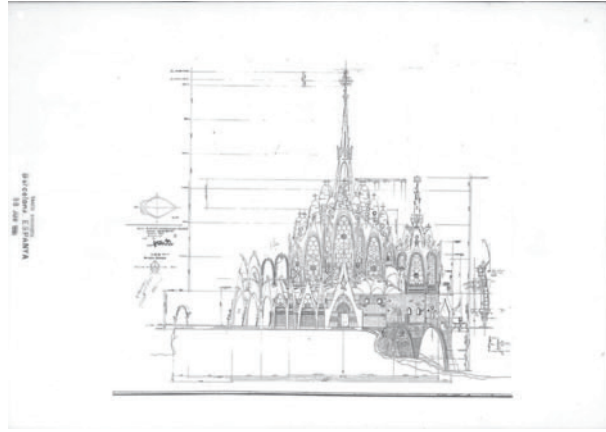
【添付】 ABSTRACT;

A Research of an Architecture Survey about Architect; Josep Maria Jujol y Gibert/1879-1949, Catalonia, Spain (13)

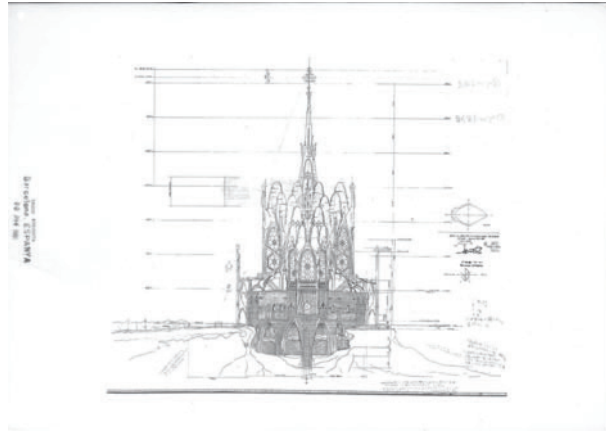
— Regarding the consideration on the draft of the rendering of “Iglesia de Montferri”: The architectural trend of Catalonia, Spain —



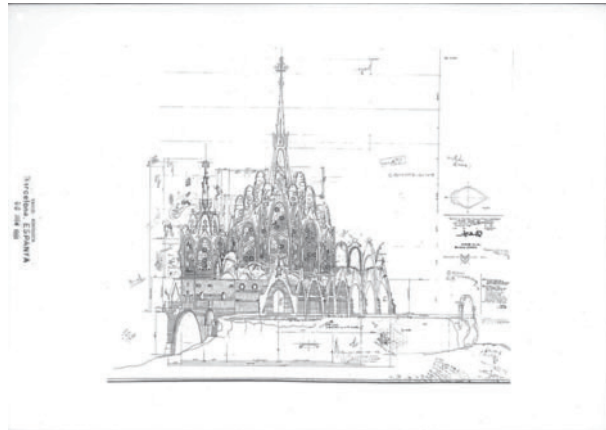
No. : 37



No. : 33



No. : 34



No. : 35

Fig. 59) Iglesia de Montferri; J.Ma.Jujol y Gibert, Montferri, 1926-30
【参照】完成予想試案（1991）東側 No. : 33 / 北側 No. : 34 / 西側 No. : 35 / 南側 No. : 37
立面図エスキス；S= 1/50）ペンシリングトレペ
W : 930×L : 1,120 mm（原版）Barcelona, Spain. 1991.；筆者所蔵：Yasuo KINOSHITA©1991.*

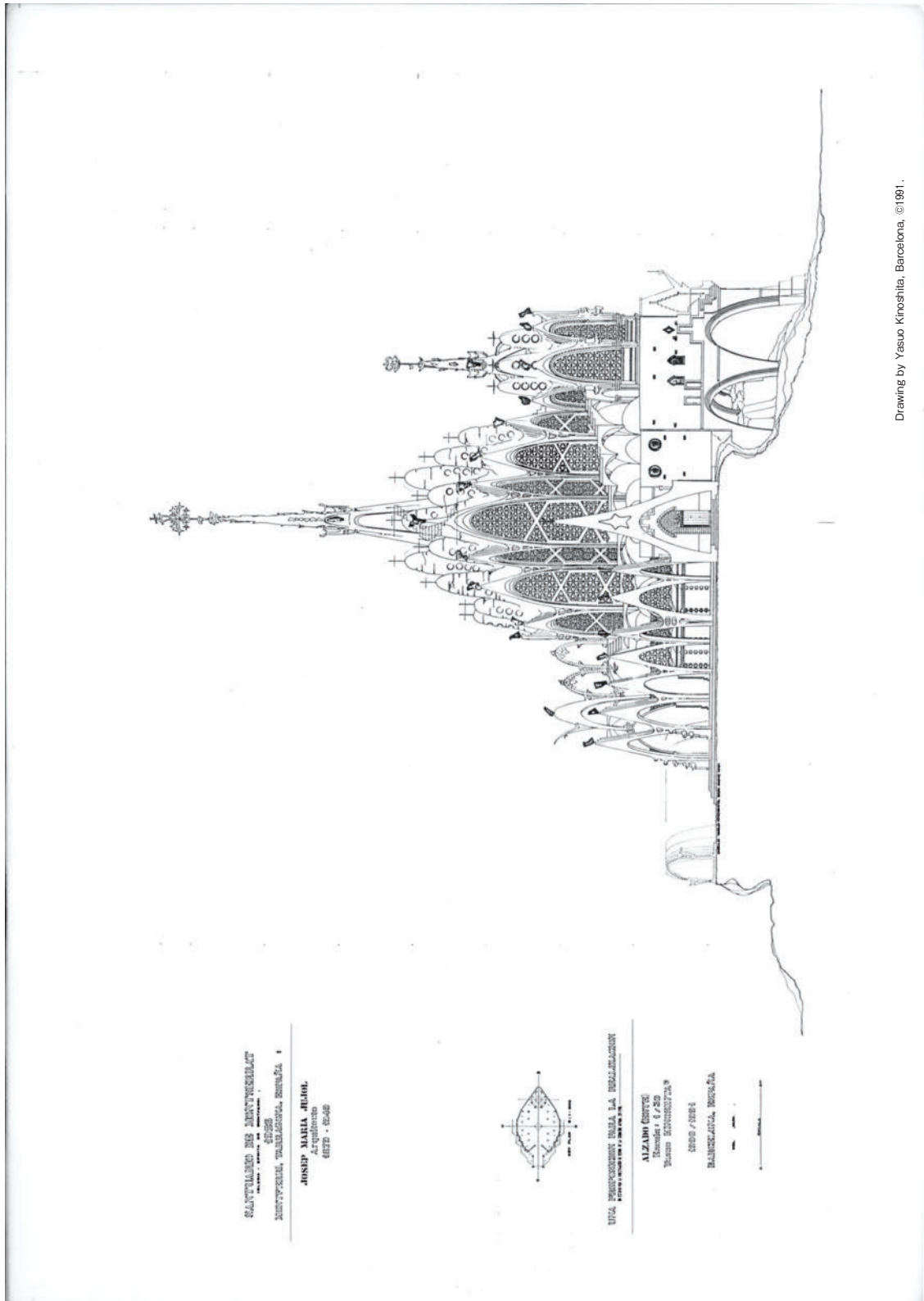


Fig.60) Iglesia de Montferri: J.Ma.Jujol y Gibert, Montferri, 1926-30
【参照】 Fig.38) 完成予想試案 (1991) 東側立面図 (S=1/50) : No : 17/17p. Inking, W-Tracing P.
W : 950×L : 2,050 m/m (縮小版), Barcelona, Spain. 1991.

筆者所蔵 ; Yasuo KINOSHITA©1991.*



Drawing by Yasuo Kinoshita, Barcelona. ©1991.

Fig.61) Iglesia de Montferri: J.Ma.Jujol y Gibert, Montferri, 1926-30
【参照】 Fig.38) 完成予想試案 (1991) 東側立面図 (S=1/50) : No : 17/17p. Inking, W-Tracing P.
W : 950×L : 2,050 m/m (オリジナル：横長), Barcelona, Spain. 1991.
筆者所蔵； Yasuo KINOSHITA©1991.*

【添付】別表-1. 『Montferri (未完) 教会堂完成予想試案』所載図面 1989-91. 整理一覧 (13), 2022.

No.	実測資料・成果	実測図面：Dibujos	Scale:	Size (mm×mm)	用紙・仕上：インク/ペンシリン	制作地/年	解説/所見・考察：	掲載No./備考
S-1	参照資料	地図：Catalonia, Spain/AlCamp/Montferri	3-Type	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Spain/Catalonia/AlCamp/1990	*当時市街で購入した地図を引用。	Fig.6
S-2	参照資料	地図：Montferri 空撮ゼロックス(1989年現況)	1/1.000	W：450×L：850	薄口トレベ/写真コピー	Montferri/1989	* Ajutamiemnto(村役場)所蔵。	Fig.7
S-3	参照資料	Iglesia de Montferri：立面エスキス	NoScale	紙片(W:210×L:297)?	イエロートレベ/ペンシリン	Montferri/1928	* 書籍資料より複写。	Fig.10
S-4	参照資料	Iglesia de Montferri：柱脚平面図(柱間隔)：Jujol	NoScale	紙片(W:210×L:297)?	トレベ/インクインク?	Montferri/1928	* 書籍資料より複写。	Fig.8
S-5	参照資料	Iglesia de Montferri：断面エスキス：Jujol	NoScale	紙片(W:210×L:297)?	トレベ/インクインク?	Montferri/1928以降?	* 書籍資料より複写。	Fig.9
B-1	所載実測図	立体図：Oblique, Military projection(遺構 1991)	1/50	W：950×L：2,050	W・トレベ/インクインク	Montferri/1991	* 立体表現にて1989年当時の状況を示した(縦長 W950×L2,050 mm)。	Fig.11
B-2	所載実測図	マスタープラン(集落広域/1989年現況)	1/1.000	W：930×L：2,080	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1990	* マスタープランは、村役所に借り縮尺に合わせ縮画仕上。	Fig.12
B-3	所載実測図	サイトプラン(現況配置/1990年現況)	1/200	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1990	* 丘陵を敬愛実測し、立ち入り教会堂遺構を基準に描く。	Fig.13
B-5	所載実測図	1F 芯心基準寸法平面図(遺構 1989)	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1990	1989年当時の1階平面図(完全)で、エントランス脚の化粧積高さを改めて断面を表現している。	Fig.14
B-14	所載実測図	縦断面図 Y-Y 身廊中央 A (遺構 1989)	1/50	W：450×L：800	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1989	1階平面の中央身廊縦断面、右側が後陣ピロティの崖方向、左側が丘陵地蔵のエンタランス側である。	Fig.15
B-21	所載実測図	コンクリート・ブロック Type-1 柱型図(遺構 1990)	1/5-	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1990	身廊内を構成するのコンクリート・ブロック(Size: 300×100×150 mm)による柱型を表現している。	Fig.16
B-22	所載実測図	コンクリート・ブロック Type-2 柱型図(遺構 1990)	1/5-	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1990	後陣部分を構成する柱型をまとめている。特に、「オーゾーヴ」を支える柱型には、ジェジョールの苦心が読み取れる。	Fig.17
B-23	所載実測図	丘陵外構スケッチ：ゲート・扉・脚穴・階橋(遺構 1991)	1/50・1/30	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Montferri/1991	メインゲートのシールドの破った脚と石積の門。祭事広場と教会堂を繋ぐ階橋。扉回も近くなり、記録すべき外構に着目し図面化する。	Fig.18
1	完成予想案	完成試案①後陣ピロティ脚柱平面(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	丘陵崖から突き出している先端部分の後陣を傾斜地に打たれた柱脚である。1階平面図の中に中二階・祭壇予定への開きと階段とスキップフロアになっている1階8角形の後陣部。*実測図 (No.: 7) との兼用。	Fig.19
2	完成予想案	完成試案②1F 後陣階・脚橋(化粧積)平面(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	1階平面図の中に中二階・祭壇予定への開きと階段とスキップフロアになっている1階8角形の後陣部。*実測図 (No.: 7) との兼用。	Fig.20
3	完成予想案	完成試案③2F 内陣クーボラ伏・屋根伏・後陣祭壇天伏1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	メイン・クーボラ・アーチリヴ立ち上り(第2層)1階クーボラ屋根伏せと後陣の2階天井伏せ図。及びエントランス側に連続アーチード表現。	Fig.21
4	完成予想案	完成試案④屋上キャットウォーク伏(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	1階クーボラ屋根の上に(キャットウォーク)の四角形連続の設置スキップフロアー屋根伏せされる。後陣2階フロアへのアーチード表現。	Fig.22
5	完成予想案	完成試案⑤屋根・小クーボラ・鐘塔伏図(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	3 鐘塔とクーボラ・アーチリヴの内の内陣及び後陣の全体屋根伏図を表現する。	Fig.23
6	完成予想案	完成試案⑥鐘塔検討エスキス(S=1/30)1991.	1/30	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	(No.: 5) のためのメイン鐘塔・後陣鐘塔のエスキス(S=1/30)図面。	Fig.24
7	完成予想案	完成試案⑦連構(1990)後陣外壁+2F 再建アーチ外部展開	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	後陣部外壁の展開図で、ピロティ部に後陣部が載り、2階再建部のリヴと外形が点線で見られる。*実測図 (No.: 16) との兼用。	Fig.25
8	完成予想案	完成試案⑧後陣再建2階部北側立面・部分(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	後陣の再建2階部の表現を中心にピロティ尖頭脚柱と1階バルコニーと左右に見える内陣脚部を点線で表現する。	Fig.26
9	完成予想案	完成試案⑨身廊内部再建リヴ Y-Y 断面・部分(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	内陣と後陣部を繋ぐ再建アーチ・リヴ及び再建の後陣2階部を中心の縦断面で、エントランス側までを点線で輪郭を表現している。	Fig.27
10	完成予想案	完成試案⑩キャットウォーク内部展開エスキス(S=1/50)1991.	1/50	W：450×L：850	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	2階屋根伏図を利用して、断面エスキスの内陣の開口部の下端位置に、完成案のキャットウォーク位置下端を検証すると、開口部下端の段差が合致した。	Fig.28
11	完成予想案	完成試案⑪立面エスキスのプロポーション検討(1)1990.	資料拡大複写	A3版(297×420)	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	立面エスキスに正三角形ライアングルの比で高さを7分割を導き、エントランスと外壁を立面エスキスにリンクさせ、実測図をベースに位置からライアングルの延長線上に鐘塔の飾りを結びつける。	Fig.30
12	完成予想案	完成試案⑫断面エスキスのプロポーション検討(2)1990.	資料拡大複写	A3版(297×420)	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	断面エスキスに正三角形ライアングルの比で高さを導き、エントランスの位置からライアングルの延長線上に鐘塔の飾りを結びつける。後陣と分離。	Fig.32
13	完成予想案	完成試案⑬検討東側立面図(S=1/50)1991.	1/50	W：930×L：1,120	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	平面を断面エスキスと外観をペンシルにて検討を重ねた形にした(1991)。	Fig.33
14	完成予想案	完成試案⑭検討北側立面図(S=1/50)1991.	1/50	W：930×L：1,120	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	平面を断面エスキスと外観をペンシルにて検討を重ねた形にした(1991)。	Fig.34
15	完成予想案	完成試案⑮検討西側立面図(S=1/50)1991.	1/50	W：930×L：1,120	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	平面を断面エスキスと外観をペンシルにて検討を重ねた形にした(1991)。	Fig.35
16	完成予想案	完成試案⑯検討南側立面図(S=1/50)1991.	1/50	W：930×L：1,120	薄口トレベ/ペンシリン	Barcelona/1991	平面を断面エスキスと外観をペンシルにて検討を重ねた形にした(1991)。	Fig.37
17	完成予想案	完成試案⑰検討東側インクインク立面図(S=1/50)1991.	1/50	W：930×L：2,080	中厚トレベ/インクインク	Barcelona/1991	東側立面だけだけを W トレベにインクインク施し(縦長：W950×L2,080 mm)帰国。	Fig.38

【註】帰国に先立ち、実測図から完成案を目標に取り組み、遺構実測図をベースに重ねる形から完成予想案を導きインクインクドロワーイングに仕上げ、あわただしく帰国をした。(星野道都大美術学部紀要 2022年(13)・添付別表)

A Research of an Architecture Survey about Architect; Josep Maria Jujol y Gibert/1879-1949, Catalonia, Spain (13)

— Regarding the consideration on the draft of the rendering

of “Iglesia de Montferri”: The architectural trend of Catalonia, Spain —

KINOSHITA Yasuo

Abstract

I have considered about possessing the draft rendering and organizing it, as well as the process that led to the expression of the draft rendering. Realistic concepts that define the area using explicit compounding can be implied from Jujol's architecture. In the attempt which even seems that the contending strain of the connecting sections is facile, Jujol's respect for it can be surmised. Through the draft rendering of Iglesia de Montferri, we can sense the multidiscipline of Jujol's later/ripening stages, in addition I have comprehensively summarized under the idea that his expressiveness deserves special mention, that the respect of complexity with the disparate which his architectural expressions have had been a reliable “method.” Regarding Jujol's “compounding” as a significant attempt is the mosaic tile expression in Park Güell felt when living in Catalonia, and also I consider that architecture which indicates the typical state likened to multistoriedness in a city is Casa Planells (1923). Concept of urban architecture probably was the attempt to take an attitude toward the architectural creation heading to the new modernism by putting Jujol's own way of combination of the compounding such as the respect for its individuality, regionality and historicity into it. To see it as the architecture as a “dream” of Jujol's in which that concept has been embedded here and there and the compounding expressed in this Montferri itself became the subject of this draft rendering.